

2021年3月期第2四半期決算(累計) プレゼンテーション資料

2020年10月
大阪ガス株式会社

1

大阪ガスの本荘でございます。

平素は、当社事業につきご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

それではただ今より、2021年3月期 第2四半期決算について説明させていただきます。

新型コロナウイルス感染症拡大の防止策として、動画配信方式での説明とさせていただきます。

目次

I. 21.3期第2四半期振り返り

- 21.3期第2四半期振り返りまとめ - 4
- 国内エネルギー事業の取組み - 5-9
- 海外エネルギー事業の取組み - 10
- 21.3期第2四半期の主なトピックス - 11-12

II. 21.3期第2四半期決算と21.3期見通し概要

- 21.3期第2四半期決算及び
21.3期見通しのポイント - 14
- 新型コロナウイルス感染症拡大が業績
に与える影響 - 15
- 21.3期第2四半期決算の対前年比較 - 16
- 21.3期見通しの対前回見通し比較 - 17
- 21.3期見通しの対前年比較 - 18
- 21.3期第2四半期の成長投資実績 - 19

III. 21.3期第2四半期決算と21.3期見通し

- 21.3期第2四半期実績 - 21-23
- 21.3期見通し - 24-28
- 21.3期第2四半期販売実績 - 29
- 21.3期販売見通し - 30
- 家庭用ガス販売 - 31
- 業務用等ガス販売 - 32

IV. 参考資料

- 21.3期第2四半期差異(対前年) - 34-35
- 21.3期見通し差異(対前年) - 36-37
- 年度見通しに対するリスク要因 - 38

インターネットを通じて定期的に経営情報を発信しています : 下記のURLで、決算短信、アニュアルレポート、説明会資料等を閲覧・ダウンロードすることが可能です。<https://www.osakagas.co.jp/company/ir/>

「見通し」に関する注意事項 : このプレゼンテーションには、将来の業績に関する見通し、計画、戦略などが含まれており、これらは現在入手可能な情報から得られた当社グループの判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績の見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知ください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、日本経済の動向、急激な為替相場・原油価格の変動並びに天候の異変等があります。

ガス販売量に関する注記 : 全て、基準熱量を45MJ/m³として、表記しています。

連結ガス販売量に関する注記 : 名張近鉄ガス・豊岡エネルギー・新宮ガスは12月決算です。

I. 21.3期第2四半期振返り

21.3期第2四半期振り返りまとめ

- 新型コロナウイルス感染症の影響下において、第一に感染防止対策の徹底を図り、安定供給の維持等、事業継続に努めるとともに、国内外において、持続的な成長に向けた取り組みを実施
- 国内エネルギー事業では、サービスメニューの拡充等によるお客さまアカウントの拡大、ウィズコロナ・アフターコロナを見据えた新たな接点機会の獲得、DX推進、電源ポートフォリオの拡充等を実施
- 海外エネルギー事業では、フリーポートLNGプロジェクト、サビン・シェールガスプロジェクトからの着実な利益貢献を実現

【国内エネルギー事業の取り組み】

（エネルギーの安定供給）

- ・ 新型コロナウイルス感染症の感染防止対策の徹底による事業継続

（組織）

- ・ 基盤会社の順調な立ち上げ、導管部門の法的分離に向けた方向性決定

（お客さまアカウントの拡大）

- ・ 電気料金メニュー、IoTサービスを含むサービスメニューの拡充等

（新たな顧客接点機会の創出）

- ・ Webを活用した「ガスてん」の開催

（DX推進）

- ・ DX（デジタルトランスフォーメーション）推進によるお客さまの利便性向上、業務効率化等

（電源ポートフォリオ拡充）

- ・ 電源ポートフォリオの拡充、再生可能エネルギー普及に向けた取り組み

【海外エネルギー事業の取り組み】

- ・ フリーポートLNGプロジェクト、サビン・シェールガスプロジェクトからの着実な利益貢献
- ・ フリーポートLNGプロジェクト第2・3系列の商業運転開始

当期は、原油価格下落によるガス事業のスライド影響など、一時的な増益要因がありましたが、新型コロナウイルス感染症拡大が事業の広範囲に影響し、実態としては厳しい状況であり、今後もその影響は継続すると考えています。

しかしながら、そうした状況下においても、まずは感染防止対策の徹底を図り、安定供給をはじめとする事業継続に最優先に努めるとともに、デジタル活用などの工夫を行いながら、国内外において持続的な成長に向けた様々な取り組みを進めてきました。

詳細は次ページ以降で説明いたします。

国内エネルギー事業の取組み(事業継続に向けた取組み)

□ 新型コロナウイルス感染症の影響下における事業継続に向け、デジタルも活用した感染防止策、感染時の対策準備等を実施

全般	□ マスク着用、リモートワーク・時差出勤等の継続 □ 座席、打合せコーナーへのアクリル板設置	
製造所	□ LNG・LPG受入時に乗船せず陸側より作業を実施することによる非接触荷役作業 □ 中央制御室入室時の消毒・検温等 □ オペレーター交代勤務時のテレビ会議システムを活用したリモート引継ぎ □ 感染時の対策準備	 (リモート引継ぎ)
供給・保安	□ 新型コロナウイルス感染症の影響下を想定した全社総合防災訓練 □ 有事の現地統括本部・地区対策本部の設置・運営ガイドライン策定 □ 中央指令室入室時の消毒・検温、執務室の分散化等 □ 緊急保安業務における現場の状況に応じた感染対策(感染防護具活用等) □ 感染時の対策準備	 (全社総合防災訓練)
お客さま先等	□ 一定の作業時間を要する業務に関する訪問の事前承諾 □ 訪問者の出社時検温、うがい・手洗い実施、マスク等感染対策用品着用 □ コールセンターの座席間隔拡大、一部受付時間の短縮、インターネット受付推奨 □ ガス料金および電気料金の支払延長措置 □ ショールームの3Dバーチャル見学 □ ハートフル弁当プロジェクトによる医療従事者の応援	 (3Dバーチャル見学)  (ハートフル弁当プロジェクト)

国内エネルギー事業における事業継続に向けた取組みとして、マスク着用、リモートワーク・時差出勤の継続などによる感染防止に努めています。

その上で、エネルギー安定供給に向けた取組みとして、製造所におけるLNG・LPG受入れの非接触荷役作業やオペレーター交代勤務時のリモート引継ぎ、新型コロナウイルス感染症影響下を想定した全社総合防災訓練などを実施しています。

お客さま先では、感染防止に加え、ガス・電気料金の支払延長措置、ショールームの3Dバーチャル見学、医療従事者を応援するハートフル弁当プロジェクトなども実施し、コロナ禍でのお客さまの利便性向上などに努めました。

国内エネルギー事業の取組み(お客さまアカウントの拡大)

□ 電気料金メニューやIoTを活用したサービスを含むサービスメニューの拡充等により、お客さまアカウントを着実に拡大

【電気料金メニューの拡充】

スタイルプラン : ライフスタイルに応じたメニュー	☐ スタイルプランS ☐ スタイルプランP ☐ スタイルプランd ☐ スタイルプランE
ウィズプラン : 好きなことをもっと楽しみたいメニュー	☐ ウィズradikoプラン ☐ ウィズよしもとプラン

ABEMAプレミアムがついてくる
「ウィズABEMAプラン」

ミライトでんきオリジナル LIL かんさい & ミライヤージュズがもらえる

ミライトでんき

【賃貸集合住宅向けサービスの拡充】

スマモル賃貸プラン
スマートロック「bitlock LITE」、
警備員の駆け付けサービス、
優待・割引サービスとセット



パレットクラウド株の株式取得
賃貸管理会社向け入居者
管理システム「パレット管理」を
提供

入居者向け
スマホアプリ&WEBサイト



管理会社向け
管理システム



【サービスの拡充】

IoTガス機器の 連携先拡充	☐ ソニーネットワークコミュニケーションズ(株)・ シャープ(株)の提供アプリとの連携
IoT対応機器の 新製品発売	☐ IoT対応ツナガルde警報器「スマびこ」 ガス漏れ・CO検知機能+ 防災・防犯 情報の提供等
住ミカタ・サービスの メニュー拡充	☐ パソコン・IoT機器のトラブル対応メニュー の拡充
リノベーション事業の 展開	☐ グローバルベイス(株)の株式取得
自家消費型太陽光 発電サービス開始	☐ 業務用等のお客さま向け「D-Solar」 (株)ウエストホールディングスとの連携による サービス

【お客さまアカウント数の推移】



6

お客さま先への訪問活動に制約を受ける状況ではありましたが、サービスメニューの拡充などにより、お客さまアカウントの拡大にも取り組みました。

電気料金メニューでは、ABEMAプレミアムとセットの「ウィズABEMAプラン」、ジャニーズをアンバサダーに起用した「ミライトでんき」の提供を開始しました。サービスでは、IoTガス機器の連携先拡充やIoT対応警報器「スマびこ」の発売、住ミカタ・サービスのメニュー拡充などを行いました。住ミカタ会員数は40万人を突破しています。業務用等のお客さま向けにはウエストホールディングスと連携した自家消費型太陽光発電「D-Solar」サービスを開始しています。また、賃貸集合住宅向けのサービスを拡充し、さらに提案の幅を広げています。

これらの活動により、9月末時点のお客さまアカウントを923万件とし、前期末の910万件から着実に増やすことができました。

国内エネルギー事業の取組み(新たな顧客接点機会の創出)

- ウィズコロナ・アフターコロナを見据えた取組みとして、デジタル接点を活用したイベント「つながるガスてん」を開催
- お客さま・地域社会と「つながる」をテーマに、NPO団体への支援・地域飲食店の応援も実施

【おうちで！みんなで！つながるガスてん】



NPO団体とつながる

「つながるプロジェクト」

「つながるガスてん」のガスてん抽選参加者1名につき10円を、本プロジェクトに参加いただいている対象の団体に支援金として寄付します。



地域飲食店とつながる

「つながるレストラン巡り」

こんな時だからこそ頑張っている飲食店を応援したい！各飲食店でスタンプを集めてご応募いただくと、抽選でお食事券をプレゼントします。

ウィズコロナ・アフターコロナを見据え、新たな顧客接点機会の創出にも取り組んでいます。

「ガスてん」は当社のガスをご利用いただいているお客さま向けのイベントで、1955年にスタートし、今年で66回を迎えます。毎年多くのお客さまにご来場いただいておりますが、初めてWEBを活用した形式で開催しています。

「つながる」をテーマとした様々なコンテンツでお客さまとつながるとともに、抽選やスタンプラリーを通して、お客さまとNPO団体・飲食店などの地域社会をつなげる取り組みも行っています。

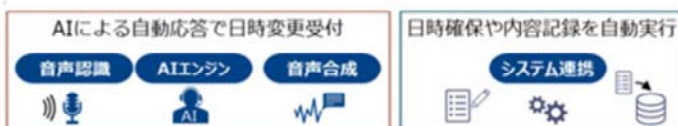
国内エネルギー事業の取組み(DX推進)

□ 独自のノウハウを有するアライアンス先との積極的な協業により、AI・ドローン等の技術を活用したお客さまの利便性向上、業務の効率化等を推進

【AI自動音声応対によるコンタクトセンター受付開始】

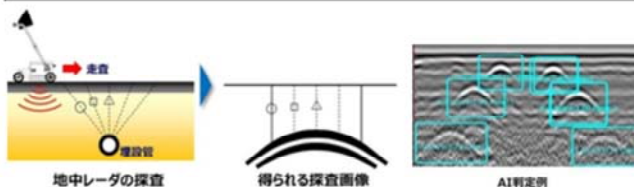
□ アライアンス先：NTTコミュニケーションズ(株)

AI自動応対コンタクトセンター



【AIを活用した業務効率化、保安水準向上】

□ アライアンス先：(株)HACARUS



【ドローンを活用したインフラ設備の点検】

□ アライアンス先：(株)ジャパン・インフラ・ウェイマーク



【京北製造所のスマートファクトリー化】

□ アライアンス先：パナソニック システムソリューションズ ジャパン(株)



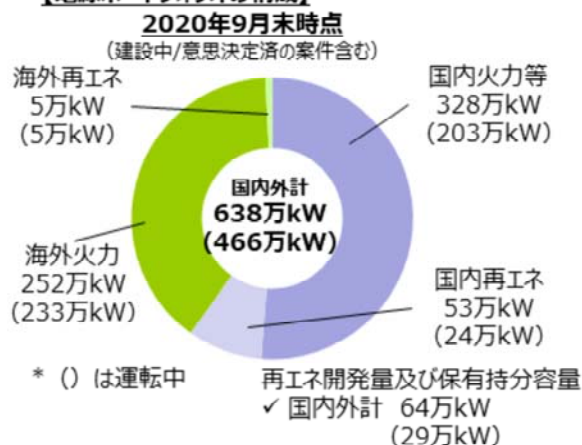
デジタルトランスフォーメーションについても、様々な分野でアライアンス先の技術・ノウハウを積極的に活用しながら進めています。

AI・ドローンなどの新しい技術を活用したサービス、業務改革を進め、お客さまの利便性向上、業務効率化・安全性向上などを実現していきます。

国内エネルギー事業の取組み(電源ポートフォリオ拡充)

- 2030年度電源調達目標900万kWに向けて着実に前進
- 洋上風力発電所取得に向けた取組みをはじめ、再生可能エネルギー普及に向けた活動も加速

【電源ポートフォリオの構成】



【主な取組み】

- ・ 福島天然ガス火力発電所の営業運転開始 (1号機：4月、2号機：8月)
- ・ (仮称) 佐賀県唐津市沖洋上風力発電事業に係る『計画段階環境配慮書』の公告・縦覧
- ・ 野辺地陸奥湾風力発電事業への共同出資
- ・ (株)ウエストホールディングスとの再生可能エネルギー調達に関する契約締結
- ・ 家庭用燃料電池エネファームによるバーチャルパワープラント (VPP) 構築実証事業開始

【建設中/意思決定済の電源】

	発電所名	設備容量 (kW)	運転開始予定
再エネ (国内)	尻別風力発電所	2.70万	2021年2月
	市原バイオマス発電所	4.99万	2020年10月
	袖ヶ浦バイオマス発電所	7.49万	2022年7月
	広畑バイオマス発電所	7.49万	2023年8月
	徳島津田バイオマス発電所	7.48万	2023年3月
	野辺地陸奥湾風力発電所	3.96万	2022年4月
天然ガス	姫路天然ガス発電所 (国内)	125万	2026年1・5月
	スリーリバーズ天然ガス火力発電所 (米国)	125万	2023年5月

(VPP構築実証事業)



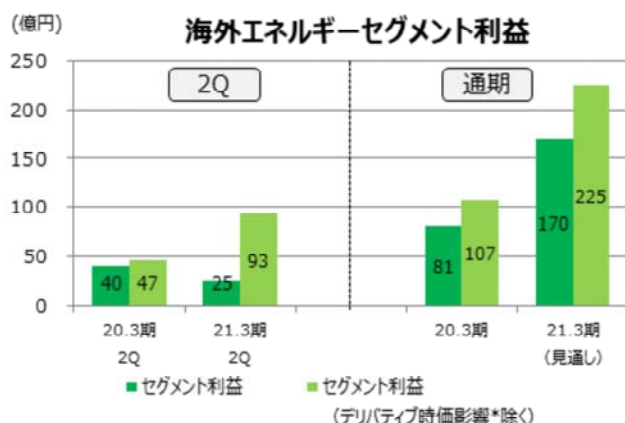
9

電源ポートフォリオ拡充では、福島天然ガス火力発電所1・2号機が営業運転を開始しました。国内外の電源持分容量は建設中なども含め、約640万kWとなりました。

再生可能エネルギーの取り組みも加速させており、新たに洋上風力の環境アセスを進めたほか、ウエストホールディングスとの太陽光発電電力の長期調達契約の締結、家庭用燃料電池エネファームによるVPP構築実証事業の開始など、低炭素・脱炭素社会への貢献に向け、活動の幅を大きく広げていきます。

海外エネルギー事業の取組み

- 海外エネルギーセグメント利益は、米国金利低下、原油価格下落による減益影響を受けたものの、フリーポートLNGプロジェクト、サビン・シェールガスプロジェクトからの利益貢献により着実に増益
- フリーポートLNGプロジェクトの第2・3系列が商業運転を開始し、今後さらなる利益拡大を実現



* フリーポートLNGプロジェクト、北米IPP事業（持分法適用会社）で保有するヘッジ会計適用外のデリバティブ時価評価による損益影響（21.3期見通しはフリーポートLNGプロジェクトのみ反映）



フリーポートLNGプロジェクト
提供：FLNG Development社



サビン・シェールガスプロジェクト



スリーリバーズ天然ガス火力発電所

主な取組み

- 米国フリーポートLNGプロジェクトの商業運転開始
→第1系列：2019年12月商業運転開始
第2系列：2020年1月商業運転開始
第3系列：2020年5月商業運転開始
- サビン・シェールガスプロジェクトの事業推進
→安定した生産に加え、デリバティブによる利益の安定化、パイプライン会社への出資を通じた事業安定性確保や輸送コスト低減等の実施
- SolAmerica Energy, LLCの事業推進
→ジョージア州において43MWの太陽光発電プロジェクトを完工
- 米国・スリーリバーズ天然ガス火力発電事業（イリノイ州）への参画（PJM市場での電力販売事業）
→発電能力：125.0万kW
発電効率：約61%（送電端・LHV基準（低位発熱量基準））
発電方式：天然ガスコンバインドサイクル方式
出資比率：15%
運転開始：2023年5月商業運転開始予定

海外エネルギー事業は、米国金利低下、原油価格下落による減益影響を受けましたが、フリーポートLNGプロジェクト、サビン・シェールガスプロジェクトの事業自体は順調に進捗し、着実な利益貢献を実現しています。フリーポートLNGプロジェクトについては、第2・第3系列が順次商業運転を開始していますので、さらなる利益貢献の拡大を実現していきます。

そのほか、ソルアメリカによる太陽光発電プロジェクトの開発、米国スリーリバーズ天然ガス火力発電事業への参画など、電源ポートフォリオの拡大も進めました。

21.3期第2四半期の主なトピックス①

4月	➢ 「福島都市ガス供給株式会社」の都市ガス製造・供給設備の商業運転開始 ➢ 大阪ガスとNTT ComがAI自動音声対応によるコンタクトセンター受付サービスを開始 ～「ガス設備調査 訪問日時の変更」受付の利便性向上～ ➢ ドローンを活用したインフラ点検ソリューションを提供する株式会社ジャパン・インフラ・ウェイマークへの出資 ➢ 画像解析を中心に優れたAI技術を保有するベンチャー企業株式会社HACARUSへの出資
5月	➢ 福島天然ガス発電所1号機の営業運転開始 ➢ 大阪ガスによるグローバルベイス社の株式取得 ➢ IoTプラットフォームを活用したシャープとの機器連携の開始～シャープ提供のスマホアプリでIoT対応ガス機器の操作が可能に～
6月	➢ 家庭用燃料電池エネファームによるバーチャルパワープラント（VPP）構築実証事業を開始～1,500台が“ツナガル”VPP実証～ ➢ シンガポールSQC Investment Pte. Ltd.への出資によるベトナムでの産業ガス製造・販売事業への参画
7月	➢ ウィズプラン第3弾！「ウィズABEMAプラン」の受付開始 ➢ 自営等BWAシステムを活用したDX推進による現場業務の効率化 ～大阪ガス泉北製造所のスマートファクトリー化～ ➢ IoT対応ツナガルde警報器「スマびこ」の発売と災害・防犯情報提供に関する大阪市、大阪府警察との連携 ➢ 「ハートフル井当プロジェクト」の実施 ～新型コロナウイルスと戦う医療従事者の皆さまを応援～ ➢ （仮称）佐賀県唐津市沖洋上風力発電事業に係る『計画段階環境配慮書』の送付および縦覧
8月	➢ 公募型ハイブリッド社債（公募劣後特約付社債）の発行に関するお知らせ ➢ ソニーネットワークコミュニケーションズとのIoT機器連携の開始 ～マルチファンクションライトのスマホアプリでIoT対応ガス機器の操作が可能に～ ➢ 賃貸集合住宅における利便性およびセキュリティの向上を目指した協業 ➢ 福島天然ガス発電所2号機の営業運転開始 ➢ 米国・イリノイ州における天然ガス火力発電事業への参画 ➢ ウェストHDとの再エネ電力調達に関する契約締結～新設小規模太陽光発電設備から相対契約による長期電力調達～

21.3期第2四半期の主なトピックス②

9月	➢ 公募型ハイブリッド社債(公募劣後特約付社債)の発行条件決定に関するお知らせ ➢ 2020年度 全社総合防災訓練の実施 ➢ ご自宅からWebで参加できる「おうちで！つながるガスてん」を開催します ➢ 住まいのお困りごとを解決し安心をお届けする「住ミカタ・サービス」のサービスメニュー拡充、及び住ミカタ会員数40万人突破
10月	➢ 大阪ガスによるバレットクラウド社の株式取得 ➢ 導管部門分社化の方向性 ➢ 大阪ガスの新電気料金メニュー「ミライトでんき」の受付開始 ➢ 再生可能エネルギーと地域が共に発展していくことを目指して5社で「FOURE構想」の共同検討に合意 ➢ Osaka Gas Niugini Pty Ltd の株式譲渡 ➢ 陸上風力発電事業への共同出資

*プレスリリース実施月を記載

II. 21.3期第2四半期決算と21.3期見通し概要

21.3期第2四半期決算及び21.3期見通しのポイント

2021.3期第2四半期決算 対前年同期比較

売上高	ガス事業における販売量減少、販売単価低下等により、 前年比2.2%(140億円)減収の6,389億円
経常利益	電力事業の増益、ガス事業におけるスライド影響等により、 前年比9.9%(49億円)増益の548億円 スライド差益は98億円(前年同期は55億円のスライド差益)
親会社株主に帰属 する四半期純利益	前年比10.0%(33億円)増益の367億円

2021.3期見通し 対前回見通し(2020/7/30)比較

売上高	国内エネルギー事業における販売単価低下等により、 前回見通し比3.2%(435億円)減収の1兆3,365億円
経常利益	ガス事業、LNG販売事業の増益、ライフ&ビジネス ソリューション(LBS) 事業・海外エネルギー事業等の減益を織り込み、 前回見通しから変更なしの1,000億円 スライド差益は42億円(前回見通しは27億円の差益)
親会社株主に帰属 する当期純利益	前回見通しから変更なしの715億円

次に2021年3月期第2四半期決算と通期見通しの概要について説明します。

当期の連結経常利益は、電力事業の増益、ガス事業におけるスライド影響などにより、前年から49億円増益の548億円となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年から33億円増益の367億円となりました。

通期見通しについては、ガス事業におけるスライド影響・ガス事業費用減による増益、LNG販売事業の増益はありますが、ライフ&ビジネスソリューション事業や海外エネルギー事業などの減益もあり、連結経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は、前回見通しから変更ありません。

新型コロナウイルス感染症拡大が業績に与える影響

- 新型コロナウイルス感染症拡大による経済活動の縮小、原油を含むエネルギー価格・米国金利下落等の業績への影響を見通しに反映
- 前回見通しからの増減益要因として、ガス事業・LNG販売事業の増益、海外エネルギー事業・LBS事業における減益を織り込み

	21.3期 2Q	21.3期 通期見通し
国内エネルギー事業	□ 原油価格下落によるスライド差益等が発生	□ 原油価格下落、3Q以降の前提条件によるスライド差益等を織り込み*
	□ 家庭用ガス販売量は想定を上回って推移	□ 2Q時点の状況を織り込み
	□ 業務用等ガス販売量は前年から12.6%減少 □ 金属・化学・飲食・ホテル業種を中心に減少	□ 2Q時点の状況を踏まえ、さらなる販売量の減少を織り込み
	□ ガス離脱、電力獲得ともにペースが鈍化	-
	□ エネルギーの安定供給は維持	□ 引き続き感染防止対策の徹底やLNG調達国の分散等により、エネルギーの安定供給を維持
海外エネルギー事業	□ 原油価格下落により上流事業は減益 □ 米国金利低下に伴うヘッジ会計適用外デリバティブの時価評価による減益影響が発生 □ 米国のエネルギー価格低下により北米IPP事業は減益	□ 2Q時点の状況を踏まえ、原油価格下落*、米国金利の低下、米国のエネルギー価格低下の影響を織り込み □ 税制優遇による増益を織り込み（出光スノーレ）
ライフ&ビジネスソリューション事業	□ フィットネス事業、情報ソリューション事業、材料ソリューション事業において業績が低下	□ 2Q時点の状況を踏まえ、フィットネス事業、情報ソリューション事業、材料ソリューション事業における業績低下を織り込み
成長投資	□ 建設工事の一部遅延が発生	-

*3Q以降の原油価格▲1\$/bblの変化に対し、21.3期の連結経常利益は約+5億円変動する可能性がある

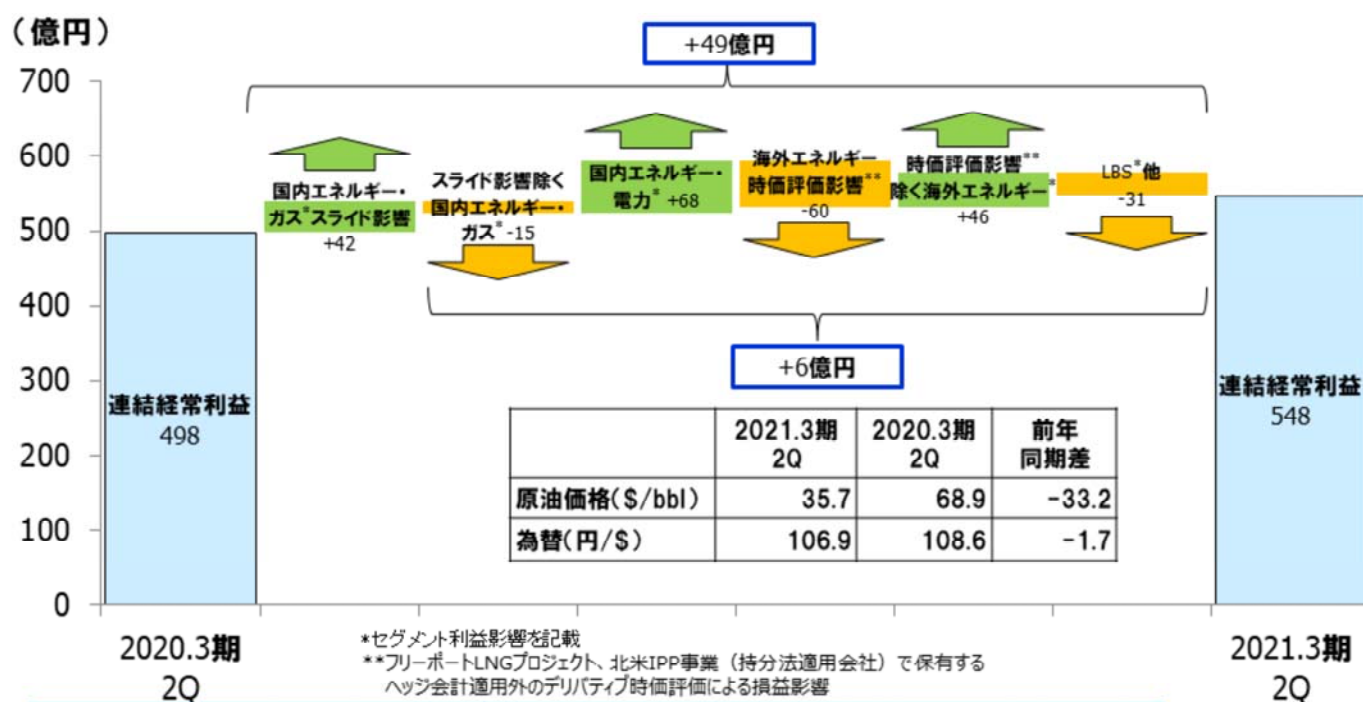
当期の実績および見通しにおける新型コロナウイルス感染症拡大の影響は、ご覧の通り、事業の広範囲に及んでいます。

第1四半期時点では、業績への影響を合理的に算定することが難しく、その時点で明らかに顕在化していた影響のみを織り込みましたが、今回は、現時点で想定される年度末までの見通しを踏まえて修正しています。

具体的な金額影響は後程説明いたします。

21.3期第2四半期決算の対前年比較

- 連結経常利益は、ガス事業のスライド影響、電力事業の増益等により、対前年+49億円の548億円
- スライド影響を除くと、ガス販売量減、海外エネルギー事業・LBS事業の減益はあるが、電力事業や時価評価影響を除く海外エネルギー事業の着実な増益により前年並み



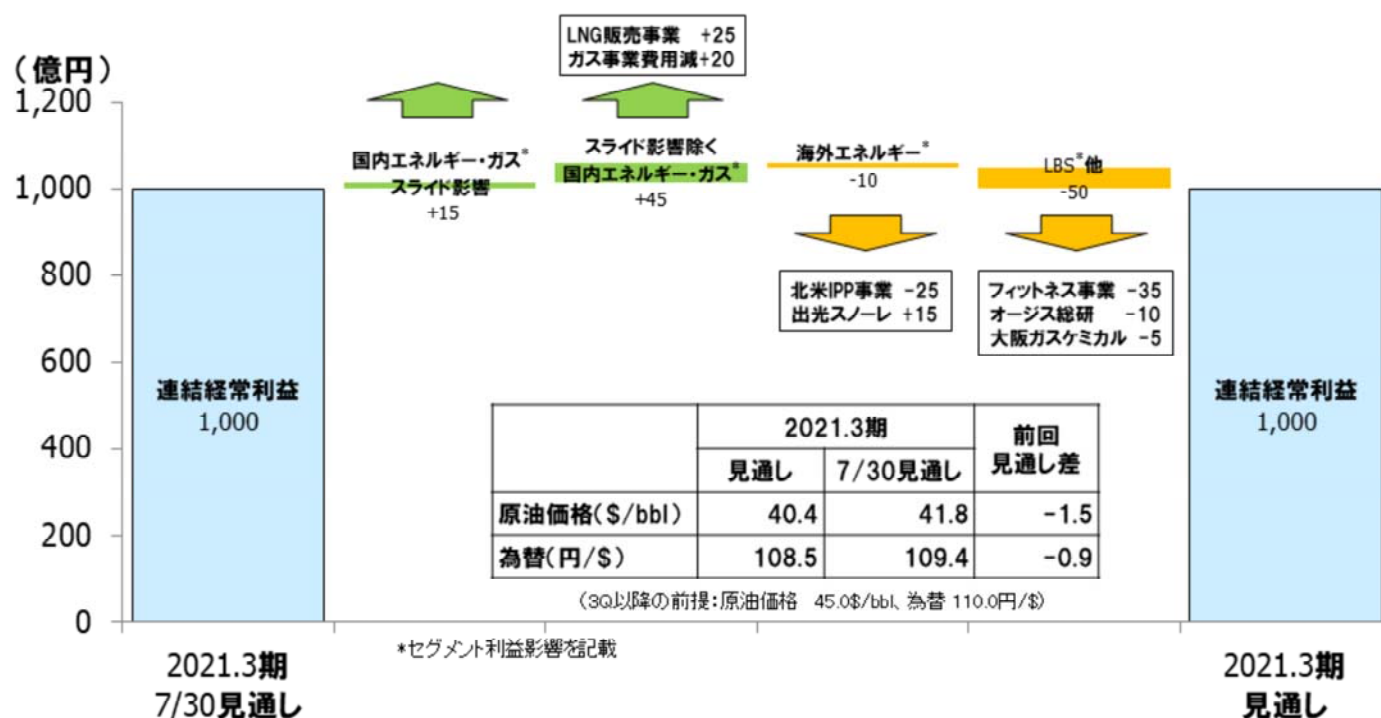
16

当期の連結経常利益は、前年から49億円の増益ですが、ガス事業のスライド影響を除くと、ガス販売量の減少、海外エネルギー事業・ライフ＆ビジネスソリューション事業の減益などにより、前年並みとなりました。

但し、電力小売の着実な契約獲得、フリーポートLNGプロジェクト、サビン・シェールガスプロジェクトの利益貢献などにより、電力事業、時価評価影響を除く海外エネルギー事業は前年から着実に増益しています。

21.3期見通しの対前回見通し比較

□ 連結経常利益見通しは、ガス事業におけるスライド影響・ガス事業費用減による増益、LNG販売事業の増益、海外エネルギー・LBS事業等の減益を織り込み、前回見通し並み



17

見通しについては、先ほどご説明した通り、連結経常利益は前回見通しから変更ありません。

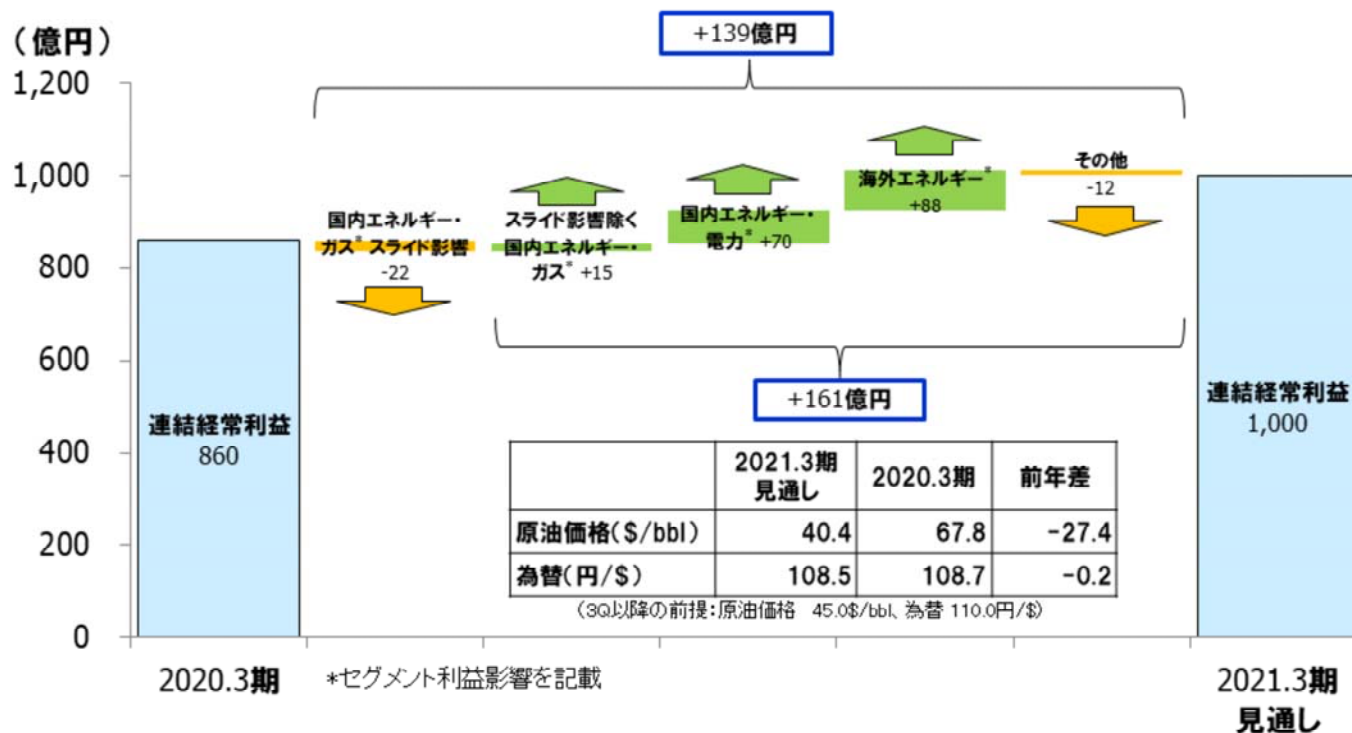
国内エネルギー・ガスセグメント利益は、ガス事業のスライド影響・ガス事業費用の減少、LNG販売事業の増益を織り込んでいます。

海外エネルギーセグメント利益は、出光スノーレで税制優遇による増益はありますが、米国のエネルギー価格の低下による北米IPP事業の減益が大きく、前回見通しから減益となる見通しです。

その他、フィットネス事業をはじめとするライフ&ビジネスソリューション事業などの減益を織り込んでいます。

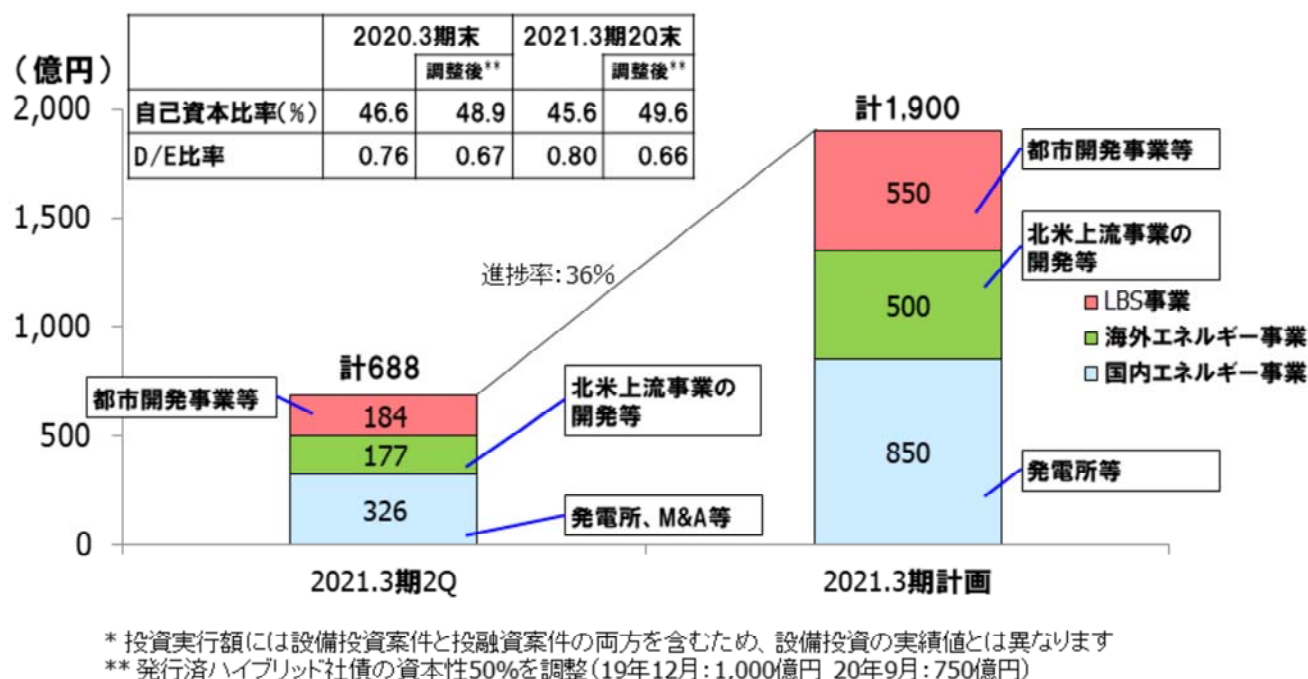
21.3期見通しの対前年比較

□ 連結経常利益見通しは、フリーポートLNGプロジェクト、サビン・シェールガスプロジェクトの利益貢献による海外エネルギー事業の増益等により、対前年+139億円の1,000億円



21.3期第2四半期の成長投資実績

- 国内エネルギー事業における発電所やM&A、北米上流事業の開発、都市開発事業等に688億円の成長投資を実行
- 財務健全性は、ハイブリッド社債の発行等により、自己資本比率50%程度、D/E比率0.7程度を維持



19

成長投資については、国内エネルギー事業の発電所やM&Aのほか、北米上流事業の開発、都市開発事業など、688億円の投資を実行しました。

財務健全性指標は、一部について資本性が認められるハイブリッド社債を考慮すると、自己資本比率が49.6%、D/E比率が0.66となり、中期経営計画で掲げた自己資本比率50%程度、D/E比率0.7程度を維持しています。

今後も財務健全性とのバランスを確保しながら、企業成長に向けた投資を進めていきます。

その他詳細につきましては、ホームページに掲載されている資料をご覧ください。

以上で、私からの説明を終わらせていただきます。

III. 21.3期第2四半期決算と21.3期見通し

21.3期第2四半期実績I

連結：億円()内は連単倍率	A. 21.3期 2Q	B. 20.3期 2Q	A-B	(A-B)/B(%)	備考
売上高	(1.28) 6,389	(1.27) 6,529	-140	-2.2%	
営業利益	(1.66) 519	(1.70) 443	+75	+17.1%	電力事業の増益、ガス事業におけるスライド影響等
経常利益	(1.45) 548	(1.42) 498	+49	+9.9%	
四半期純利益*	(1.30) 367	(1.23) 334	+33	+10.0%	
EBITDA**	1,055	934	+121	+13.0%	
* 親会社株主に帰属する四半期純利益					
** EBITDA＝営業利益＋減価償却費＋のれん償却費＋持分法投資損益					
スライド差損益	98	55	+42	-	
スライド差損益控除後 経常利益	449	442	+6	+1.6%	
原油価格***	\$/bbl	35.7	68.9	-33.2	
為替レート	円/\$	106.9	108.6	-1.7	

*** 21.3期2Q原油価格実績は、9月速報値までの平均

21.3期第2四半期実績II

単位:億円	売上高			セグメント損益*			備考
	A.21.3期 2Q	B.20.3期 2Q	A-B	A.21.3期 2Q	B.20.3期 2Q	A-B	
国内エネルギー・ガス	4,380	4,641	-261	317	289	+27	利益:スライド影響等
国内エネルギー・電力	1,111	977	+133	116	48	+68	利益:販売量増、タイムラグ影響等
海外エネルギー	300	254	+45	25	40	-14	利益:時価評価影響等 時価評価影響を除くとフリーポートLNGプロジェクト、サビン・シェールガスプロジェクトの利益貢献等により増益
ライフ&ビジネスソリューション	995	1,051	-55	72	90	-17	利益:情報ソリューション事業、フィットネス事業の減益等
消去又は全社	-399	-396	-2	36	17	+18	
連結	6,389	6,529	-140	568	486	+81	

* セグメント損益=営業損益+持分法投資損益

**2020年4月に韓ガスアンドパワー(国内エネルギー・電力)をDaigasガスアンドパワーソリューション㈱(国内エネルギー・ガス)に吸収合併。20.3期2Q実績はこの影響を考慮して算定

内、ヘッジ会計適用外のデリバティブ時価評価影響
21.3期2Q -68, 20.3期2Q -7, 前年差 -60

21.3期第2四半期実績III

連結: 億円	A. 21.3期 2Q末	20.3期 2Q末	B. 期末	A-B	備考
総資産	21,995	20,291	21,404	+590	成長投資の進捗、現預金増等
自己資本	10,040	10,042	9,974	+65	
有利子負債	8,038	6,799	7,540	+498	社債発行等
在籍人員(人)	21,044	20,628	20,543	+501	オーシス総研G、新規連結による増等
自己資本比率	45.6%	49.5%	46.6%	-1.0%	
(ハイブリッド社債考慮後*)	(49.6%)	(49.5%)	(48.9%)	(+0.7%)	
D/E比率	0.80	0.68	0.76	+0.04	
(ハイブリッド社債考慮後*)	(0.66)	(0.68)	(0.67)	(-0.02)	

*発行済ハイブリッド社債の資本性50%を調整

連結: 億円	A. 21.3期 2Q	20.3期 B. 2Q	通期	A-B	備考
設備投資	826	514	1,310	+312	
減価償却費	486	447	919	+39	
フリーキャッシュフロー*	564	648	1,253	-83	
ROA	1.7%	1.6%	2.0%	+0.0%	
ROE	3.7%	3.3%	4.2%	+0.3%	
EPS(円/株)	88.5	80.4	100.5	+8.1	
BPS(円/株)**	2,414.9	2,415.3	2,399.1	+15.9	

*フリーキャッシュフロー＝営業活動によるキャッシュ・フロー(税引後営業利益＋減価償却費等非現金支出)－通常の設備投資による支出

**増減は20.3期末実績との差異を記載

21.3期見通しI

連結：億円 () 内は連単倍率		A. 21.3期 見通し	B. 21.3期 7/30見通し	A-B	(A-B) / B (%)	備考
売上高	(1.30)	13,365	(1.30) 13,800	-435	-3.2%	国内エネルギー事業の販売 単価低下等
営業利益	(1.95)	935	(2.14) 900	+35	+3.9%	ガス事業・LNG販売事業の 増益等
経常利益	(1.69)	1,000	(1.89) 1,000	-	-	フィットネス事業・ 海外エネルギー事業の減益
親会社株主に帰属する 当期純利益	(1.59)	715	(1.74) 715	-	-	
EBITDA*		2,000	1,975	+25	+1.3%	
* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却費 + 持分法投資損益						
スライド差損益		42	27	+15	-	
スライド差損益控除後 経常利益		957	972	-15	-1.5%	
原油価格**	\$/bbl	40.4	41.8	-1.5		3Q以降 45.0\$/bbl
為替レート	円/\$	108.5	109.4	-0.9		3Q以降 110.0円/\$

** 21.3期2Q原油価格実績は、9月速報値までの平均

21.3期見通しII

単位:億円	売上高			セグメント損益*			備考
	A.21.3期 見通し	B.21.3期 7/30見通し	A-B	A.21.3期 見通し	B.21.3期 7/30見通し	A-B	
国内エネルギー・ ガス	8,700	8,975	-275	525	465	+60	利益:ガス事業・LNG販売事業の 増益
国内エネルギー・ 電力	2,210	2,310	-100	150	150	-	
海外エネルギー	790	790	-	170	180	-10	利益:北米IPP事業の減益等
ライフ&ビジネス ソリューション	2,175	2,235	-60	190	215	-25	利益:フィットネス事業・ 情報ソリューション事業の減益等
消去又は全社	-510	-510	-	-	-	-	
連結	13,365	13,800	-435	1,035	1,010	+25	

* セグメント損益=営業損益+持分法投資損益

21.3期見通しIII

連結：億円 () 内は連単倍率		A. 21.3期 見通し	B. 20.3期	A-B	(A-B) / B (%)	備考
売上高	(1.30)	13,365	(1.26) 13,686	-321	-2.4%	
営業利益	(1.95)	935	(1.83) 837	+97	+11.6%	海外エネルギー事業における増益等
経常利益	(1.69)	1,000	(1.47) 860	+139	+16.3%	
親会社株主に帰属する 当期純利益	(1.59)	715	(0.93) 417	+297	+71.1%	前年度の海外上流事業における減損損失の反動等
EBITDA*		2,000	1,809	+190	+10.5%	
* EBITDA＝営業利益＋減価償却費＋のれん償却費＋持分法投資損益						
スライド差損益		42	65	-22	-	
スライド差損益控除後 経常利益		957	795	+161	+20.4%	海外エネルギー事業における増益等
原油価格**	\$/bbl	40.4	67.8	-27.4		3Q以降 45.0\$/bbl
為替レート	円/\$	108.5	108.7	-0.2		3Q以降 110.0円/\$

** 21.3期2Q原油価格実績は、9月速報値までの平均

21.3期見通しⅣ

単位:億円	売上高			セグメント損益*			備考
	A.21.3期 見通し	B.20.3期	A-B	A.21.3期 見通し	B.20.3期	A-B	
国内エネルギー・ ガス	8,700	9,737	-1,037	525	531	-6	利益:前年並み
国内エネルギー・ 電力	2,210	2,048	+161	150	79	+70	利益:販売量増等
海外エネルギー	790	612	+177	170	81	+88	利益:フリーポートLNGプロジェクト、 サビン・シェールガスプロジェクトの 利益貢献等
ライフ&ビジネス ソリューション	2,175	2,194	-19	190	196	-6	利益:前年並み
消去又は全社	-510	-906	+396	-	1	-1	
連結	13,365	13,686	-321	1,035	890	+144	

* セグメント損益=営業損益+持分法投資損益

21.3期見通しV

連結:億円	A. 21.3期末 見通し	B. 20.3期末	A-B	備考
総資産	22,852	21,404	+1,447	成長投資の進捗等
自己資本	10,568	9,974	+593	
有利子負債	8,344	7,540	+804	資金調達等
在籍人員(人)	21,450	20,543	+907	Jacobi, オージス総研G等
自己資本比率	46.2%	46.6%	-0.4%	
(ハイブリッド社債考慮後*)	(50.1%)	(48.9%)	(+1.1%)	
D/E比率	0.79	0.76	+0.03	
(ハイブリッド社債考慮後*)	(0.65)	(0.67)	(-0.02)	
連結:億円	A. 21.3期	B. 20.3期	A-B	備考
設備投資	2,030	1,310	+719	成長投資の進捗等
減価償却費	946	919	+27	
フリーキャッシュフロー**	853	1,253	-400	運転資本の増等
ROA	3.2%	2.0%	+1.2%	
ROE	7.0%	4.2%	+2.8%	
EPS(円/株)	172.0	100.5	+71.5	
BPS(円/株)	2,541.7	2,399.1	+142.7	

*発行済ハイブリッド社債の資本性50%を調整

**フリーキャッシュフロー=営業活動によるキャッシュ・フロー(税引後営業利益+減価償却費等非現金支出)-品質向上投資による支出

21.3期第2四半期販売実績

*ガス供給件数＝取付メーター数－閉栓中メーター数(空家等)－他社ガス供給件数
 **用途別の差異要因はP.31・32に記載

■ ガス販売

45MJ/m ³		A. 21.3期2Q	B. 20.3期2Q	A-B	(A-B)/B (%)
個別	ガス供給件数(千件、期末時点)*	5,096	5,332	-236	-4.4%
	新設工事件数(千件)	48	48	-1	-1.1%
	家庭用1戸当り販売量(m ³ /月)	23.3	21.9	+1.5	+6.8%
	家庭用**	693	682	+11	+1.6%
	業務用等**	2,465	2,821	-356	-12.6%
ガス販売量合計(百万m ³)		3,158	3,504	-345	-9.9%
連結ガス販売量		3,178	3,525	-348	-9.9%

■ 電力販売(連結)

		A. 21.3期2Q	B. 20.3期2Q	A-B	(A-B)/B (%)
	小売	2,715	2,095	+620	+29.6%
	卸等	4,879	4,255	+624	+14.7%
国内電力販売量(百万kWh)		7,594	6,349	+1,244	+19.6%
低圧電気供給件数(千件、期末時点)		1,424	1,160	+265	+22.8%

■ お客さまアカウント(連結)

		A. 21.3期2Q末	B. 20.3期末	A-B	(A-B)/B (%)
お客さまアカウント数(万件)		923	910	+13	+1.4%

21.3期販売見通し

*用途別の差異要因はP.31・32に記載

■ ガス販売

45MJ/m ³		21.3期 7/30見通し	A. 21.3期 見通し	B. 20.3期 実績	A-B	(A-B) /B (%)
個別	家庭用*	1,798	1,817	1,798	+19	+1.1%
	業務用等*	5,200	5,100	5,526	-427	-7.7%
ガス販売量合計(百万m ³)		6,998	6,917	7,324	-408	-5.6%
連結ガス販売量		7,034	6,953	7,362	-410	-5.6%

■ 電力販売(連結)

	21.3期 7/30見通し	A. 21.3期 見通し	B. 20.3期 実績	A-B	(A-B) /B (%)
国内電力販売量(百万kWh)	16,567	16,567	13,189	+3,378	+25.6%

■ お客さまアカウント(連結)

	21.3期末 7/30通し	A. 21.3期末 見通し	B. 20.3期末	A-B	(A-B) /B (%)
お客さまアカウント数(万件)	930	930	910	+20	+2.2%

家庭用ガス販売 21.3期第2四半期実績、21.3期見通し**21.3期2Q実績**

	対前期	備考
調定件数	-3.5%	他社へのスイッチング等
気水温影響	+5.4%	平均気温23.7度(対前年同期 +0.1度)
その他	-0.3%	ガス機器の高効率化、世帯人数減少等
合計	+1.6%	

**21.3期見通し**

- 平年気水温を前提とした気水温影響の反動による増加等により、前年比+1.1%、19百万m3増の1,817百万m3を見込む。

業務用等ガス販売 21.3期第2四半期実績、21.3期見通し

21.3期2Q実績

	対前期	備考
需要開発	+0.6%	設備導入、燃料転換等
気水温影響	+0.3%	
設備稼働増減	-8.3%	新型コロナウイルス感染症拡大の影響等
個別要因	-4.1%	お客さま先での減少、他社へのスイッチング等
その他	-1.1%	
合計	-12.6%	



21.3期見通し

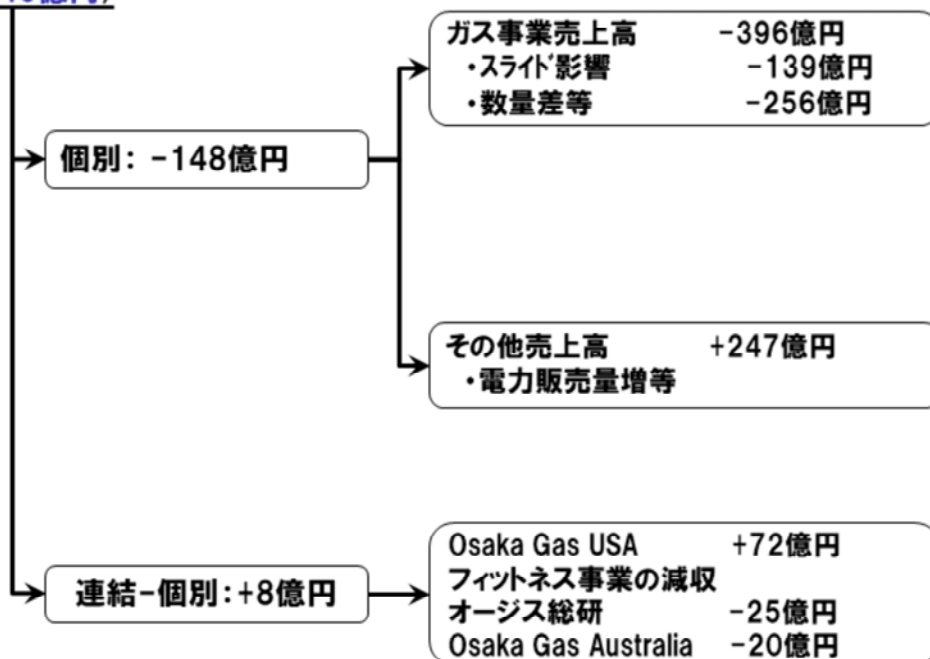
- 新型コロナウイルス感染症の拡大影響等により、前年比-7.7%、427百万m³減の5,100百万m³を見込む。

IV. 参考資料

21.3期第2四半期の売上高差異(対前年)

20.3期2Q → 21.3期2Q (差異)

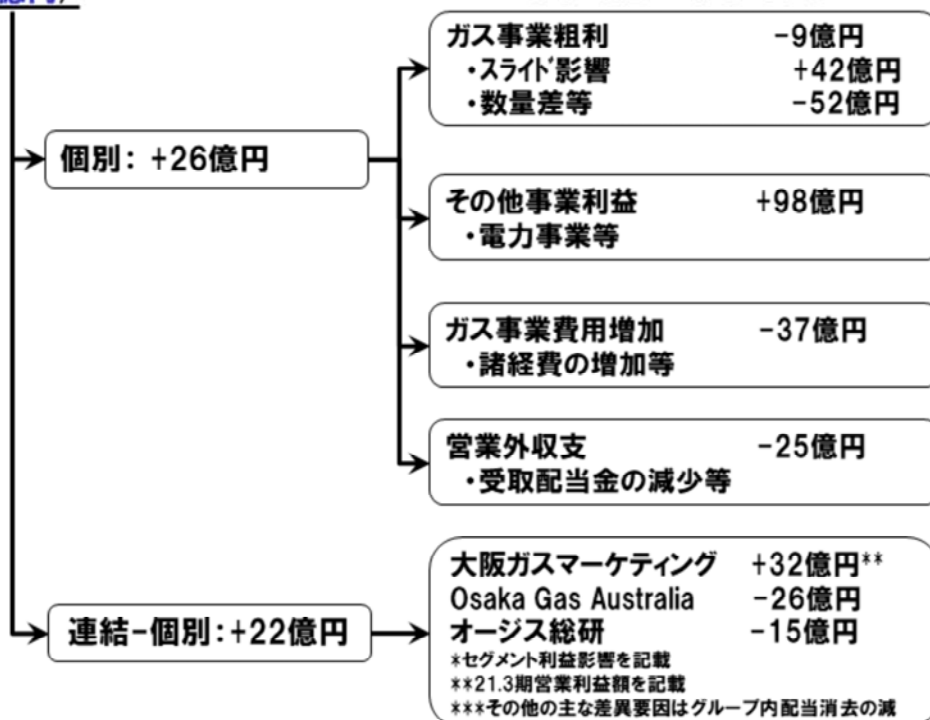
6,529億円 6,389億円 (-140億円)



21.3期第2四半期の経常利益差異(対前年)

20.3期2Q → 21.3期2Q (差異)
498億円 548億円 (+49億円)

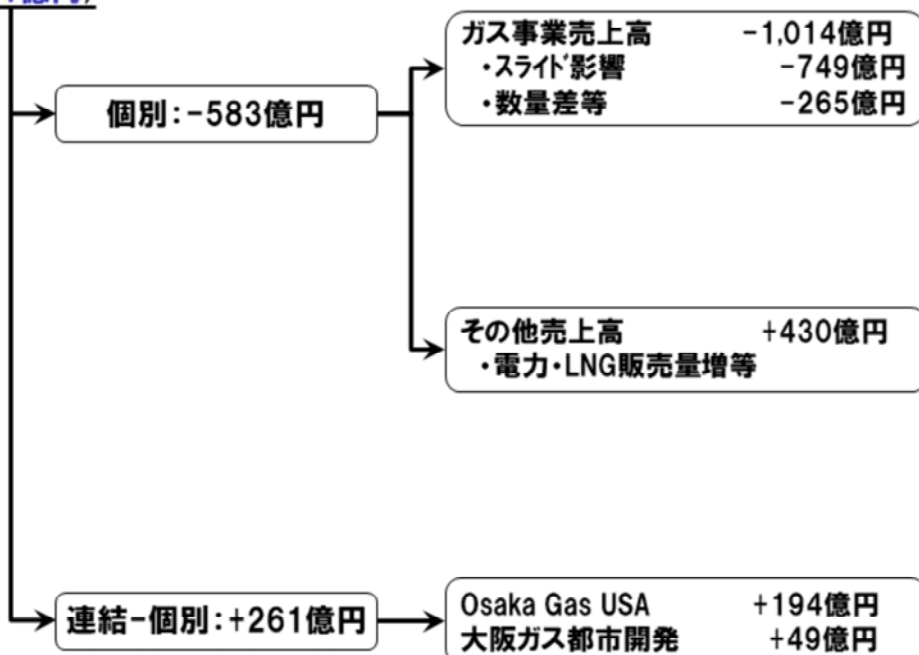
+-の符号は利益への影響を表す。



21.3期見通しの売上高差異(対前年)

20.3期 → 21.3期見通し(差異)

13,686億円 13,365億円 (-321億円)

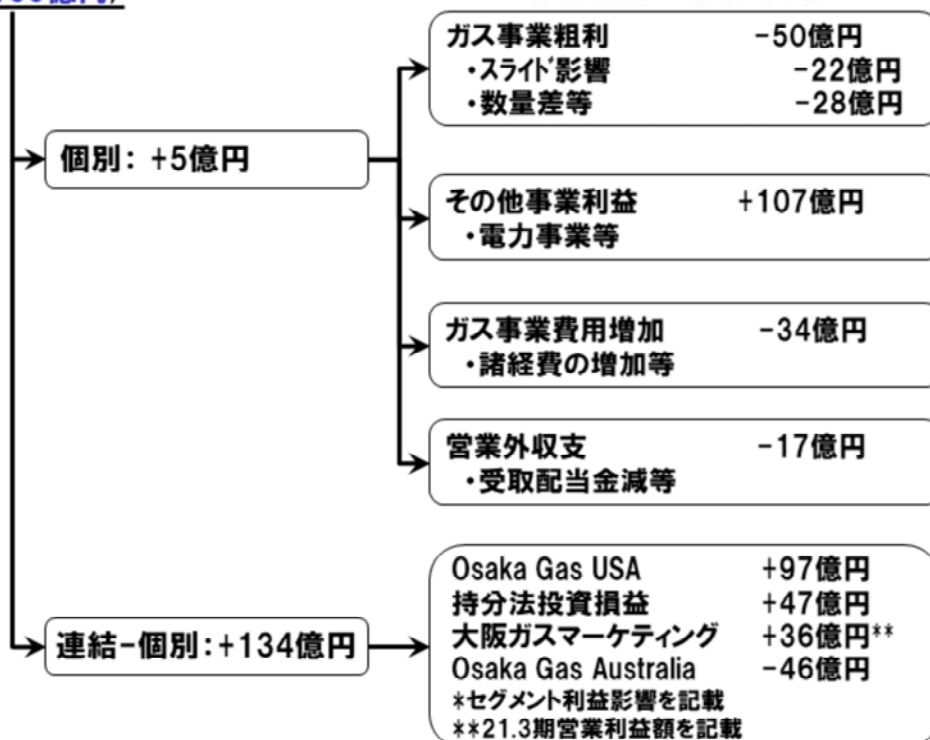


21.3期見通しの経常利益差異(対前年)

20.3期 → 21.3期見通し(差異)

860億円 1,000億円 (+139億円)

+-の符号は利益への影響を表す。



年度見通しに対するリスク要因

■ 気温・水温

- 気・水温1度の変化に対し、家庭用ガス販売量は、春秋期約7%・夏期約8%・冬期約6%変動する可能性がある。

■ 原油価格

- LNG価格が原油価格にリンクすることなどから、原油価格+1\$/bblの変化に対し、21.3期の連結経常利益は約-5億円変動する可能性がある。

■ 為替レート

- LNG価格が米\$・円の為替レートにリンクすることなどから、為替レート+1円/\$の変化に対し、21.3期の連結経常利益は約-7億円変動する可能性がある。

■ 原料費

- 原料費調整制度によって、中長期的には原料費の変動はガス料金に転嫁されるが、反映までのタイムラグや原料調達先の構成によって、業績に影響を与える可能性がある。

■ 金利

- 金利+1%の変動に対し、21.3期の連結営業外費用が年間+19億円変動する可能性がある。

以 上